

令和3年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
管理機関名 高知県教育委員会
代表者名 教育長 伊藤 博明

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 高知県立室戸高等学校
学校長名 藤田 勇人
類型 グローカル型

3 研究開発名

目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践

4 研究開発概要

ESDの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、これまで取り組んできたキャリア教育によって培った基礎的・汎用的能力をさらに向上させる。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩井 雅夫	高知大学海洋コア総合研究センター 教授	学識経験者
高橋 唯	室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員	学識経験者
近森 憲助	高知学園大学 学長	学識経験者

杉尾 智子	高知県青年国際交流機構（高知県 IYEO） 副会長	学識経験者
別府 誠	高知県 観光振興部 地域観光課長	関係行政機関の職員
伊藤 博明	高知県教育委員会	関係行政機関の職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
室戸ジオパーク推進協議会	会長 室戸市長 植田 壯一郎
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略 審議会	委員長 赤池 慎吾 (高知大学次世代地域創造センター准教授)
室戸市E S D活動拠点センター	センター長 大西 亨
高知県立室戸高等学校	校長 藤田 勇人
高知県教育委員会	高知県教育長 伊藤 博明

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	小笠原 翼	室戸ジオパーク推進協議会・ 国際交流専門員	都度依頼し謝金 支払い
地域協働学習支援員	小笠原 翼	室戸ジオパーク推進協議会・ 国際交流専門員	都度依頼し謝金 支払い

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム関係				1回		1回	2回	3回	1回		3回	
海外交流アドバイザー 地域協働学習実施支援員	通年で活動											
運営指導委員会								1回			1回	

(2) 実績の説明

①コンソーシアムについて

○室戸高校魅力化の会

令和2年11月5日 生徒活動報告、室戸高校のPR、公設塾、学校支援について協議

令和3年2月25日 成果報告、地域課題の解決に高校生の力を活用する企画提案

○室戸ユネスコジオパーク推進協議会

令和2年7月1日 生徒活動報告、本年度活動概要の説明

令和2年10月 世界ジオパーク高校生交流会開催について協力依頼

○室戸市総合振興計画策定会議

令和2年10月8日 室戸市の行政、産業、教育の今後について協議、生徒活動報告

○室戸市友好交流協会

令和2年11月2日 ポートリンカーン市との友好都市締結30周年について協議

○室戸市保小中高・園長連絡協議会

令和2年12月16日 生徒活動報告、高校生と保育園・小・中学校との協働内容について検討

令和3年2月17日 成果報告

○室戸市長

令和2年9月1日 女子野球支援について

令和2年11月12日 室戸高校生徒に英会話力を身につけさせる構想を協議

○オンライン会議 令和3年2月22日

- ・地域実践活動についての指導・助言
- ・令和3年度の規約改正

②海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員について

令和2年4月～令和3年3月

- ・ランカウイについて情報収集
- ・三好ジオパーク構想地域訪問事業の行程表案作成
- ・三好ジオパーク構想地域訪問事業生徒指導用資料作成
- ・代表生徒との勉強会
- ・ユネスコ世界ジオパーク関係機関との連絡・調整
- ・JGN全国大会に係る連絡・調整
- ・JpGUに係る連絡・調整
- 口頭発表申し込み（アブスト、プレゼン準備）
- 生徒とのミーティング
- ・生徒の研究活動に対する指導・助言
- ・来年度事業計画協議

③運営指導委員会について

○第1回会合 令和2年11月2日

- ・地域協働による高等学校改革推進事業の取組について説明
- ・産業社会と人間等、事業とかかわる科目の年間指導計画の確認
- ・新型コロナウイルス感染症による計画の変更について
- ・事業成果のまとめ方について協議し、方針を決定

○第2回会合 令和3年2月16日

- ・1年間の総括と次年度の計画について協議

④管理機関における取組について

○管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・円滑な事業執行のための学校への助言
- ・国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
- ・地域協働学習実施支援員の配置
- ・マレーシア・ランカウイジオパークとの窓口（コンソーシアム）

- ・ジオパーク学習に関する助言（コンソーシアム）
 - ・地域振興にかかわる研究テーマの提言と成果発表への教員及び生徒の参加費支援（コンソーシアム）
 - ・他県のジオパーク推進協議会と学校との連携支援（コンソーシアム）
 - ・SDGs学習等地域イベント・研修会への生徒招待（コンソーシアム）
 - ・生徒の商品開発への支援（コンソーシアム）
- 事業終了後の自走を見据えた取組について
- ・県外及び海外関係高校との遠隔システム活用による交流

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○ESD体制・プログラム開発と実践												
産業社会と人間				2回		3回	1回	1回	1回		2回	
続・産業社会と人間	通年で取組（11月に企業見学会）											
課題研究	通年で取組（12月に発表会）											
総合学科発表会											中止	
ジオパーク学	通年で取組											
○地域貢献活動			2回	2回	1回	1回	3回	6回		1回	1回	1回
○地域交流								1回		1回		
○国際交流												
オーストラリア交流								1回	1回			
APGN会議参加						延期						
ランカウイ訪問								中止				
○国内学校間交流								1回		3回		
○教科横断的な学習				1回		1回		1回	1回		1回	1回

(2) 実績の説明

○ESD体制・プログラム開発

総合学科で特色ある科目である産業社会と人間、続・産業社会と人間、課題研究、ジオパーク学の科目においては、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」ことを主な活動とした。

- ・産業社会と人間 1年次 2単位

本校のビジョンである「全ての教育活動を地域貢献につなげる」ことを目指したカリキュラム・マネジメントを行った。一つのイベントについて、必ず振り返りの時間を入れているのが特色である。従来、1年次の産業社会と人間では、室戸地域の課題を知るという目標設定であったが、室戸ジオパーク推進協議会の専門員の方々や地元企業の講演を振り返り、担当教員が協議し、1年次であっても課題解決の提案まで行わせることが生徒にとって効果的であると判断し昨年度から内容を見直し、本年度もグループワークと発表を積極的に導入した。新型コロナウイルス感染症による臨時休校があり、日程や内容の見直しを行った。

・ 続・産業社会と人間 2年次 1単位

例年であれば、夏季休業前に室戸市内のインターンシップである職場体験学習を実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症のため授業時数確保と感染予防の観点から実施を見送った。この職場体験学習をもとに学年発表会を行うが、これも実施を見送ることとなった。昨年度から室戸市の産業振興課の協力を得て、市内企業見学会を2年次生に実施しているが、新たに本年度は1年次生にも拡大し、学校と行政が協働し、地元製造企業や個人事業者、室戸市役所など訪問することができた。室戸市役所への訪問では室戸市長に室戸市の課題を直接お話しいただき、問題意識を共有することができた。これからも地域との関係性を継続していく必要がある。

・ 課題研究 3年次 2単位

地域振興にかかわるテーマを選択した生徒は、48%であった。生徒の興味関心のある分野は多岐にわたっており、さらにゴールイメージを持ちづらいため、自分たちが考えていることは、何につながるのかを考えられるような授業内での工夫を行っていく必要がある。地域振興、課題解決につながるテーマを生徒が選択する割合を60%程度にしたい。

・ ジオパーク学 2年次2単位 選択

学校設定科目であり、平成23年度から設置している。特色ある科目であり、ジオパークの専門員と協働で授業を行っていることが、県外のジオパーク関係者からも注目されている。1年間かけて、ジオパークに関する課題を見つけ、その解決に向けて取り組む教育活動である。課題は調査だけで終わってしまい課題解決に到達しない生徒がいるため、自発的な活動を促すことが重要となる。

○地域貢献活動

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点により、室戸市内を中心に行われるボランティア活動や各種催し物を学校が生徒に紹介し、参加させることができなかった。しかしながら、室戸警察署や交通安全協会主催の街頭キャンペーンについては希望者を募って、参加することができた。来年度以降も新型コロナウイルス感染症への感染予防対策をしっかりとりつつ、各種団体が企画する地域貢献活動へ参加していきたい。

○地域交流1

ジオパーク構想を目指している徳島県の三好地域を本校生徒が訪問し、海を中心とした室戸地域と、山・川を中心とした三好地域の違いを実際に体験することにより、生活や文化がどのように異なるかを学ぶことができた。

なお、現地の徳島県立池田高等学校生徒と交流することができ、地元の特産物をテーマに意見交換することができた。

○地域交流2

地域交流1で参加した本校生徒5名が今回は今年度新たに発足した徳島県三好ジオパーク構想推進協議会の教育部会の会員らに対して、実際に三好ジオパーク構想地域を訪問し経験

したことをもとに「ジオパークと教育」というテーマで高校生らの意見を述べた。

○国際交流

室戸市と姉妹都市であるオーストラリアのポートリンカーン市の高校生同士が交流し、異文化理解や相互理解を深めることで、グローバル社会に対応できる人材を育成する目的で、室戸市友好交流協会と連携し行っている行事であるが、こちらも新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための海外渡航規制のため直接交流を行うことができず、代替としてオンライン交流を行った。

本校とポートリンカーン高校をオンラインで接続し、1年次の生徒9名とポートリンカーン高校の高校生が趣味や家族、住んでいる地域などのテーマを設定し、本校は英語を使い、ポートリンカーン側は日本語を使って紹介しあう交流事業を行った。

○国内学校間交流1

長崎県・島原半島ユネスコ世界ジオパーク内にある長崎県立口加高等学校とは、昨年度から直接・オンラインでの交流を開始した。本年度の「口加高校探究学習発表大会」に本校の代表生徒5名がオンラインで参加した。本校からは代表として「ジオパークのテーマソングをつくる」というテーマで1年間音楽制作に専念していた3年次生が発表を行った。

○国内学校間交流2

新潟県立糸魚川白嶺高等学校（指定事業アソシエイト校）と昨年度から相互交流をしている。本年度の「白嶺防災フォーラム2020」に本校の代表生徒1名がオンラインで参加し、防災に対する取組として避難路の確認や避難所開設に際する問題点について3年次生がプレゼンテーションを行った。

○国内学校間交流3

文部科学省指定事業のオンライン発表会である「2021年 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」に参加するため、本校からは「室戸市の防災と減災のために、私たちができること」という日本語発表動画と“*Our Proposal for Regional Development of Muroto City*”という英語発表動画を投稿した。本校を含む全国の指定校が本年度の取り組みについて動画を作成し投稿する形式で実施され、令和3年1月30日に投稿動画内容の表彰式及び代表生徒が学校紹介を行った。本校は日本語発表部門で銀賞、英語発表部門で金賞・文部科学省初等中等教育局長賞を受賞した。

○教科横断的な学習

ジオパークと防災というテーマはたいへん密接に関係しており、防災学習は理科、地歴・公民、生徒会防災活動、県教育委員会の被災地訪問企画（本年度は実施無し）、ジオパークの専門員のアドバイスが、相互に関係した学校の教育活動であった。

意欲的な2年次生は防災活動にたいへん興味関心を持っており、自発的に行動した。その成果を、J p G U（日本地球惑星科学連合）でオンラインポスター発表を行い、さらに室戸市の防災対策課にも提言を行うなど活躍した。

また、主に進学クラスであるが、英語教育の中に、地域の問題を取り込んだ英語教材を開発や、生徒の個人研究に生かすことができた。

●成果の普及方法・実績

本年度の学習成果発表会は次のとおりである。年度当初計画をしていた複数の発表については、新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見送った。

産業社会と人間 ライフプラン発表会

令和2年12月1日 13:30～15:00 室戸高等学校

課題研究 課題研究発表会

令和2年12月15日 9:00～15:00 室戸高等学校

地域貢献活動等の広報

生徒の活動については、室戸市の広報誌に毎月掲載

●研究開発の実施体制

・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」について、コンソーシアム等で協議した。また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表、約10名の外部委員による学校運営協議会を構成し、支援をいただいた。一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、室戸市の「まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、コンソーシアムを構築し、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めるため、コンソーシアムの構成員について見直しを行った。

・学校全体の研究開発体制、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

校内推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をESDの視点で見直し、昨年度から海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成した。本校では全ての教育活動を地域貢献に繋げるという目標を設定する。生徒会活動など特別活動、学校行事や地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に連動し、地域を元気にする源となるよう取り組むことにした。また、キーワードはSDGsとなっている。

・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

生徒対象の学校オリジナルアンケート及び学校運営協議会からの意見を基に評価・検証する。

・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

室戸ユネスコ世界ジオパークにかかわる大学教授、ジオパーク専門指導員の助言を基に、室戸市、室戸ジオパーク推進協議会や室戸市内の中学校との連携・協働を図り、取組を進めてきた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

<添付資料>目標設定シート

※ ()内は令和3年度の到達目標、◎達成 ○ほぼ達成 △未達成

◎文理総合系列において、英検準2級以上取得、もしくはそれと同等の実力があると教員等が認めた生徒の割合 52% (50%)

3年				2年				
生徒の英語力 (CEFR)	6/1	12/1	学年 目標値	生徒の英語 力 (CEFR)	6/1	12/1	3/1	学年 目標値
	現在	現在			現在	現在	現在	

B1以上	0人	2人	4人	B1以上	1人	2人	2人	2人		
A	A2	5人	4人	3人	A	A2	2人	1人	4人	3人
	A1	3人	2人	1人		A1	2人	6人	8人	8人
A1未満	11人	11人	11人	A1未満	28人	24人	12人	20人		

1年

生徒の英語力 (CEFR)	6/1 現在	12/1 現在	3/1 現在	学年 目標値	
B1以上	0人	0人	0人	4人	
A	A2	0人	6人	8人	1人
	A1	5人	3人	5人	1人
A1未満	20人	16人	12人	19人	

◎高等学校卒業後の地元就職率 33% (20%)

※公務員や地域貢献に関わりたい生徒が増加

企業	県内	株式会社 南国ミロク
		赤穂化成株式会社
	県外	西尾レントオール株式会社
		株式会社 丸本
公務員	県内	室戸市役所
	県外	海上自衛隊

(令和2年度卒業生実績)

△「課題研究」(3年次生)で地域課題解決につなげるテーマの割合 48% (60%)

1・2年次生のうちに、もっと地域課題について触れさせる機会を増やすことにより、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスを根付かせたい。生徒の興味関心のある分野は幅広いが、自分たちが考えていることは、何につながるのかを考えさせたい。

△日本の他地域のユネスコ世界ジオパークとの交流3回(5回)

令和2年9月12日 地域みらい留学フェスタ(学校紹介での交流)

島根県立隠岐高等学校

令和3年1月26日 新潟県立糸魚川白嶺高等学校 オンラインによる発表会参加

令和3年1月29日 長崎県立口加高等学校 オンラインによる発表会参加

新型コロナウイルス感染症のため、対面での直接交流を行うことができなかった。そのような状況でも、オンラインを活用することにより、時間や予算といった問題を克服できるツールとしての利用をさらに検討していく。ただし、情報機器整備(タブレット等)や通信回線の不安定さ、ソフトウェアインストール制限などの技術的な課題がある。また、直接交流でしか体験することができないこともあるので、適度なバランスを模索していく必要がある。

△室戸高等学校への入学者数 27名(45名) ※令和2年4月現在

事業をとおして、地域に関わりたいと考える生徒が増加し、学習に対する意欲が上昇して

いる生徒も増えてきた。しかしながら、この成果を地元中学校の生徒や保護者へPRするにはこれまで以上の工夫が必要である。

昨年度、校内に教職員の中で学校広報チームを作り、室戸市の広報への掲載依頼や、学校前の横断幕等のPR方法を実施してきた。本年度からはHP以外にもFacebookやInstagramといったSNSを活用した情報発信を模索している。今後は、中学校での学校説明会についても工夫をする必要がある。

また、県外生徒を受け入れる制度を整備しているため、地域みらい留学等の仕組みを利用しながら、地域と学校の両方でアピールする予定である。

△室戸高等学校が関わる地域イベント数 11 件 (20 件)

新型コロナウイルス感染症のため、イベント自体がほとんど開催されなかった。年度途中からは、十分な感染症対策を講じつつ、学校独自で主催するイベントやボランティア活動から行うこととした。学校が把握していない自主的活動を含めれば7割以上の生徒が地域貢献活動やボランティア活動に参加している。

しかしながら、学校オリジナルアンケートからも地域や社会に対する目的やその意義を考えず、参加している生徒が一定数存在するのではないかと考える。学校が企画したり紹介したりする活動に対しては、その目的や意義、期待される効果など事前に考えさせることが必要である。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

・海外交流について

今後も新型コロナウイルス感染症による制限が考えられる。国内だけでなく海外の状況を注視しつつ、できる限りジオパークを活用した海外交流を実施し、その成果の発表を充実させたい。本来、直接交流が効果的であるが、オンラインを補完的に活用していき、双方の長所を活用した交流としたい。

・地域貢献活動について

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況により、計画の大幅な変更が生じたが、実施をする前には、その意義や到達目標を生徒に示したい。また、SNSを活用することにより、スピード感のあるリアルタイムな情報発信に努めたい。

海外交流も市民とともに協働して行うことができることが目標である。オーストラリア・ポートリンカーン市との姉妹都市の関係を生かし、来年度の当初には、現地の高校と姉妹校の協定を結び、より一層の交流を行いたい。

次年度は最終年度であり、これまでの学びを生かした形でジオパークを核とした地域貢献について生徒国際交流会を行い、高校生の学びが地域を活性化できるようにしたい。

・「産業社会と人間」、「続・産業社会と人間」、「課題研究」について

地域貢献活動に関するテーマを強制して設定させるのではなく、主体的に地域課題解決に取り組ませたい。探究という視点に立ち、3年間を見通した学習内容となるよう、改めてカリキュラムの見直しを行っていきたい。

・カリキュラム開発について

E S Dの視点で地域貢献につながる活動の体系化は、今後の本校の活動における核となる。教科横断的な視点も併せて、探究的な活動につなげることができるよう、意識的に取り組んでいく必要がある。

【担当者】

担当課	高等学校振興課	T E L	088-821-4542
氏 名	中越 啓介	F A X	088-821-4547
職 名	指導主事	e-mail	keisuke_nakagoshi@ken4.pref.kochi.lg.jp